

チャペル週報

あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。

(使徒言行録1:8)



2011.9.20~9.30 No.14
関西学院宗教センター

☆チャペル・スケジュール☆

時間 10:35～11:05 場所 各学部チャペル

9月20日(火)	神文 榎本 てる子(神学部准教授) アンドレアス・ルスターホルツ(宗教主事)
社法 新学期にあたって 打樋 啓史(宗教主事)	
経法 栗林 輝夫(宗教主事)	
商経 秋学期を迎えて 村田 治(経済学部教授・学部長)	
商山 山本 俊正(宗教主事)	
国平 平林 孝裕(宗教主事)	
聖和 田淵 結(教育学部宗教主事)	
総高 高畑 由起夫(総合政策学部教授・学部長)	
9月21日(水)	神青 青木 麻里子(M1)
社「いのち」をめぐる① 打樋 啓史(宗教主事)	
法 English Chapel Christian Morimoto Hermansen(宣教師)	
経 English Music Chapel Timothy Dale Boyle(宣教師)	
商山 山本 俊正(宗教主事)	
人嶺 重 淑(宗教主事)	
国平 平林 孝裕(宗教主事)	
聖和 吉新 ばら(キリスト教教育・保育研究センター)	
理秋 秋学期礼拝オリエンテーション	
総村 村瀬 義史(宗教主事)	
9月22日(木)	神文 汐碓 直美(M1) アンドレアス・ルスターホルツ(宗教主事)
社 東日本大震災から半年を覚えて 関 嘉寛(社会学部准教授)	
法 栗林 輝夫(宗教主事)	
経舟 舟木 讓(宗教主事)	
商山 山本 俊正(宗教主事)	
国 English Chapel Eun Ja Lee(宣教師)	
聖和 一步スマイルプロジェクト報告「一步スマイルプロジェクト “東日本大震災復興夏ボラ10日間プログラム”を終えて」	
総細 見 和志(総合政策学部教授)	
9月26日(月)	神鍋 鍋谷 由美子(M1)
経舟 舟木 讓(宗教主事)	
人住 住野 公平(人間福祉学部職員)	
聖和 聖書物語「いのちをあたえられた人、いやされた人」	
9月27日(火)	神文 貴田 直樹(M2) アンドレアス・ルスターホルツ(宗教主事)
社 献血実行委員会によるチャペル	
法 「秋の献血の奨め」(1) 献血実行委員会	
経舟 舟木 讓(宗教主事)	
商秋 秋の献血週間について 宗教総部	
国 献血実行委員会	
聖和 芝田 正夫(教育学部教授・学部長)	
総李 李政 元(総合政策学部准教授)	
9月28日(水)	関西 学院創立122周年記念合同チャペル(西宮上ヶ原キャンパス) 「創業者ランパスの遺産」樋口 進(宗教センター宗教主事) 於：中央講堂
聖和 岩坂 二規(教育学部准教授)	
理秋 秋学期開講礼拝 今岡 進(理工学部教授・学部長)	
総村 村瀬 義史(宗教主事)	
9月29日(木)	神中 中田 道隆(M1)、中道 祐太(神2)、今井 圭介(神1)
文 永田 雄次郎(文学部教授)	
社 「いのち」をめぐる② 打樋 啓史(宗教主事)	
法 「秋の献血の奨め」(2) 献血実行委員会	
経 献血実行委員会	
商 秋の献血週間について 宗教総部	
国 English Chapel Eun Ja Lee(宣教師)	
聖和 学生YMCA「ハンセン病療養所大島青松園に行つて」	
総山 山田 孝子(総合政策学部教授)	
9月30日(金)	院樋 樋口 進(宗教センター宗教主事)
神 献血実行委員会	
文 English Chapel Andreas Rusterholz(宗教主事)	
経舟 舟木 讓(宗教主事)	
人 秋の献血週間を覚えて 宗教総部献血実行委員会	
聖和 田淵 結(教育学部宗教主事)	
理 「感謝」 松木 真一(宗教主事)	

創立記念日をむかえて

對 馬 路 人

関西学院が神戸近郊の原田村に産声を上げたのは1889年（明治22年）のことでした。その年の初めには大日本帝国憲法が発布され、ようやく近代（戦前）日本の国家構造の骨格が定まったそんな時期でした。創設者のランバスが両親とともに宣教師として来日したのはその3年前の1886年、日本を去ったのは1891年ですから日本での宣教活動は5年ほどでした。その短い間に親子は関西学院、広島女学校（現在の広島女学院）などの学校の設立、瀬戸内海の沿岸部での伝道、教会建設に奔走しました。その成果には目を見張るものがあります。ランバス親子の精力的な活動ぶりや本国の伝道団体の支援に加え、日本におけるキリスト教ブームもその後押しをしたと思われます。当時の日本のプロテスタント信徒はメソジスト教会系だけで80万人を超えていたとする資料もあります。関西学院はこうした順風を受けて創立されたといえます。

しかしこうした順風の環境は長続きしませんでした。1890年代に入ると、いわゆる教育勅語発布に見られるように、政府は教育を通した天皇中心のナショナリズムの国民への浸透に力を注ぐようになります。それとともに国粹主義が台頭し、キリスト教やキリスト教教育が批判の矢面に立たされるようになります。内村鑑三の「不敬事件」や井上哲次郎による「教育と宗教の衝突」論議がそれを象徴する出来事です。それによりキリスト教徒たちやキリスト教主義の学校は、神への内面の信仰と天皇や国家への忠誠の関係をどう調整しどう位置づけるか、あるいは国や民族の違いを超えた無差別の博愛と人間関係の親疎・遠近により差別のある愛の関係をどう調整しどう位置付けるか、ある場合には内的な葛藤として、ある場合には直接の外圧として、判断を迫られるようになっていきました。こうした緊張をはらんだあり方は戦前期をとおして続くことになります。しかしこうした経験はある意味で、貴重な資産といえるかもしれません。なぜなら現代の我々にとっても、内面の自由と組織の秩序、個別的な愛着と普遍的博愛の葛藤といった問題は決して処理済みのものではないからです。関西学院が問いかけ、あるいは関西学院に問いかけられた問題はいまも生きていくといえるでしょう。

（社会学部教授・副学長）

●秋の献血週間のお知らせ

学生会宗教総部では、秋の献血週間を実施いたします。提供していただく血液は、兵庫県赤十字血液センターでの検査を経て医療現場に届けられます。皆様のご協力をお願いいたします。

期 間：10月3日(月)～7日(金)

受付場所：吉岡記念館ラウンジ

●関西学院チャペル・オルガニスト秋の発表会

各学部のチャペルで奏楽を担当するチャペルオルガニストはじめレッスン生たち44人が練習の成果を披露します。パイプオルガンに関心のある方、そしてランバス記念礼拝堂に入ったことのない方もお気軽にお越しください。演奏中以外は入退場自由です。

と き：10月8日(土)13:00～16:00頃

ところ：ランバス記念礼拝堂(上ヶ原)

指導者：高橋明子、太宰まり、能島亜未

主 催：吉岡記念館事務室宗教センター

●宗教活動委員会 第2回教育研究部サロン

「大学におけるキリスト教主義教育の実践と新たな可能性」

～社会学部、法学部の取り組みに見る「学生とキリスト教との出会い」～

と き：10月20日(木)18:00～20:00

ところ：関西学院高等部 静修室(1階)

報 告：打樋啓史(社会学部准教授・宗教主事)

栗林輝夫(法学部教授・宗教主事)

●ランバスチャペルアワー

学部の枠を超えて集まった学生主体のチャペルがランバスチャペルアワーです。秋学期の予定は以下のとおりです。

10月25日(火)

11月15日(火)

いずれもランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原キャンパス)にて10:35～11:05

●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急梅田駅から徒歩すぐ、アプローズタワー14階の大阪梅田キャンパスでは、授業期間中の毎週金曜日にチャペルアワーを開催しています。

(18:00～18:20 1405教室)

9月30日(金)田淵 結(教育学部宗教主事、宗教総主事)

●CD・DVDライブラリー

吉岡記念館事務室宗教センターには、教会音楽、キリスト教に関するCDやDVDを備えています。本学学生及び教職員(学生証または身分証明書必要)であればどなたでも利用できますので、希望者は事務室までお越しください。

●使用済み切手収集にご協力ください

本学では日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)切手部の活動に協力し、使用済み切手の収集をしています。通常切手も対象としていますのでどうぞ吉岡記念館常設の回収箱にお届けください。

●盲導犬育成のためご協力をお願いします

関西学院宗教活動委員会は、目の不自由な方々の社会参加促進を願い、社会福祉法人「日本ライトハウス」の募金活動に協力しています。吉岡記念館事務室はじめ募金箱を用意しておりますので皆様の温かいご協力をお願いいたします。